

題目：幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度の開発

保健医療学専攻・看護学分野・公衆衛生看護学領域

学生番号：16S3027 氏名：佐藤 美樹

研究指導教員：荒木田 美香子

キーワード：エンパワメント，家族，親，育児

1. 研究の背景と目的

健やか親子 21 や地域子育て支援施策などの虐待予防を含めた幅広い対策により子育ての社会化が進みつつあるが、身近な地域に相談相手がいないなど、子育て家庭の孤立した状況が見受けられる。このような状況は必ずしも個人や家族の問題だけではなく、変化する社会との関係が孤立した状態を生み出し、サポートの欠如¹⁾が育児の問題に対処することが困難な Powerless な状態を生み出す可能性がある。エンパワメントは、他者との関係性によって生じるものであり、個人的な側面だけでなく、対人関係・集団・組織・地域社会など多次元的な側面をもつとされる。家族エンパワメントが必要とされるのは、親が家族との相互作用を通じて、育児の課題を主体的に解決する力量を獲得していくプロセスに着目する必要性からである。そのため、子育て期の家族への支援には個人と家族や地域社会との関係性に着目し、Powerless な状態の家族を見極めるため、家族全体に焦点をあてたエンパワメントの視点が必要である。

家族エンパワメントの測定に関する研究では、Koren ら²⁾の情緒障害児を養育する家族のエンパワメント尺度（心構え・知識・態度の 3 領域の質問項目で構成）等が開発されている。しかし、国内の先行研究では海外の尺度を翻訳したものや疾患や障害を持つ家族のエンパワメント尺度であり、すべての子育て期の家族に活用するには、質問項目が不足していると考えられた。

そこで、本研究は幼児を持つ親の家族エンパワメントを測定する尺度を開発し、妥当性・信頼性を検討することを目的とした。

2. 方法 本研究は、第 1 段階（目的 1）と第 2 段階（目的 2）からなる。

1) 第 1 段階：子育て期の家族エンパワメントの構成概念を整理し、尺度原案を作成することである。尺度原案作成プロセスは次のとおりである。まず、文献検討による 57 項目からなる尺度項目の抽出を行い、次に地域看護学及び家族看護学を専門とする大学教員及び行政保健師へのグループインタビュー調査による内容妥当性の検討を行った。さらに追加の文献検討、表面妥当性の検討のために看護専門職へのプレテストの実施し、60 項目の尺度原案を作成した。

2) 第 2 段階：幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度（Family Empowerment Scale for Parent with infants：以下 FES-P）を開発し、妥当性と信頼性を検討することである。調査 1 と調査 2 からなり、調査 1 は FES-P の開発、調査 2 は再テスト法による再現性と安定性を検討する目的で行った。

調査 1 は、インターネット調査会社にモニター登録している 825 人（男性 412 名、女性 413 名）にインターネットを用いた構成的調査を実施した。インターネット調査を選択した理由は、調査対象である 20～50 歳代は年代的にインターネットを使用する世代であること、全国に居住する調査対象者を選定可能であること、母親だけでなく父親の回答が得やすいことなどがあげられる。調査内容は、基本属性、FES-P（60 項）に加えて、基準関連妥当性を確認するための Family APGER Score、育児感情尺度、地域関連要因等を用いた。分析は、記述統計、探索的因子分析、確認的因子分析、によりモデルの適合度を検討した。調査期間は 2018 年 5 月 10 日～12 日であった。

調査 2 は、年齢構成・男女割合を調査 1 に合わせ調整した別サンプルの 200 名に対して、基本属性、FES-P（26 項目）を用い、インターネット調査による 2 回の回答を依頼した。分析は、1 回目と 2 回目の家族エンパワメント尺度の下位因子および尺度総得点の級内相関係数を求め、再現性を検討した。調査期間は、1 回目の調査から 2 回目の調査までの間隔は 2 週間とし、2018 年 8 月 8 日～23 日であった。

3. 倫理的配慮

国際医療福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した (承認番号: 16-Ig-154, 17-Ig-133, 18-Ig-65).

4. 結果

1) **第1段階**: 修正版定義は、「幼児を持つ親の家族エンパワメントとは、親が育児上の問題に気づき、気づいた問題を他者と共有し、問題解決への意思決定、情報の獲得や資源の活用を通して、内発的に動機づけられ、家族で力を合わせて問題解決ができている状態である」と定義した。また、幼児を持つ親の家族エンパワメントの構成概念を「家族の問題の認識と共有 (19項目)」、「育児情報の獲得や資源の活用 (25項目)」、「育児の効力感 (8項目)」、「親としての役割達成感 (8項目)」に分類し、60項目を尺度原案とした。

2) **第2段階**: 第1段階で作成した FES-P (60項目) は天井効果・床効果を示す項目は見られず、探索的因子分析の結果、14項目を削除し、5因子36項目を採択した。次に、確認的因子分析を行い、修正指数と改善度を参考に χ^2 乗値の低下がみられた項目の削除と共分散を加えて修正し、モデルを改良し、10項目が削除され、最終的に5因子26項目の FES-P が開発された。FES-P の構成要素は、「第1因子: 家族の関係性」、「第2因子: 育児の効力感」、「第3因子: 地域とのつながり」、「第4因子: 親役割達成感」、「第5因子: サービスの認知と活用」と命名した。5つの下位因子間には中程度の関連 ($r=.45\sim r=.75$) がみられたことから、モデルの解釈のしやすさと適合度指標を勘案し、2次因子モデルを採択した。さらに、共分散構造分析の多母集団同時分析により、男女の配置不変が確認された。適合度は、RMSEA=.044, GFI=.878, AGFI=.852, CFI=.943, AIC=1739.1 であった。FES-P の総得点と外的基準との相関係数は、Family APGER Score と FES-P 総得点では $r=.562$ と有意な正の相関、育児感情尺度の3つの下位尺度の肯定感では $r=.620$ と有意な正の相関、負担感は $r=-.233$ と有意な負の相関、特性的自己効力感尺度では、 $r=.318$ と有意な正に相関がみられた。FES-P (26項目) 全体の Cronbach's α 係数は.96、5つの下位因子の Cronbach's α 係数が.85~.96 であり、内的整合性が確認された。調査2においては、1回目、2回目ともに回答の得られた148名 (回収率74%) を分析対象とした。級内相関係数は、FES-P 全体で $r=.88$ 、5つの下位因子でも各々 $r=.79\sim .84$ であり、安定性と再現性が確保できた。

5. 考察

FES-P の構成概念は「家族との関係性」、「育児の効力感」、「地域とのつながり」、「親役割達成感」、「サービスの認知と活用」の5つであった。共分散構造分析の適合度は、CFI.90以上、RMSEA.05以下であることから、本尺度は適合度が良好であるといえ、一定程度の構成概念妥当性が確認された。FES-P 総得点と外的基準 (Family APGER Score, 育児感情尺度, 特性的自己効力感尺度) との相関、また FES-P 総得点と世帯収入、育児の情報源、近隣との付き合い、地域活動への参加と参加の意向との関連が認められたことから、尺度の妥当性が確認された。調査1および調査2の結果より、本尺度の内的整合性および再現性は十分に確保でき、信頼性を有する尺度であると判断できた。家族をエンパワメントする支援には、5つの構成概念から対象者の状況を把握し、子育て中の家族の思いや育児の状況を聞きながら気づきを促し、周囲のサポート資源や必要なサービスをアセスメントし、家族の力を引き出していくことの必要性が示唆された。

6. 結語

本研究では、5因子、26項目からなる一定の妥当性と信頼性を有する FES-P が開発された。FES-P は、幼児を持つ親の自己評価および親子を支援する保健師等の専門職が家族支援に用いる指標として活用することができる。また、「地域とのつながり」と「サービスの認知と活用」は地域保健領域において、組織として実践すべき事業内容の評価などへの活用可能性が示唆された。

引用文献

- 1) 久保美紀. ソーシャルワークにおける Empowerment 概念の検討—Power との関連を中心に—. ソーシャルワーク研究 1995; 21(2): 94-99
- 2) Paul E. Koren, etc. Measuring Empowerment in Families Whose Children Have Emotional Disabilities: A Brief Questionnaire. Rehabilitation Psychology 1992; 37(4):305-321.